

コープリハビリテーション病院 老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。



中央、スーツ姿の菱川朋人教授と右手に小野由起様



川崎医科大学附属病院の脳卒中カンファレンス風景。中央が菱川先生
(川崎医科大学脳卒中医学教室SNS、川崎医科大学脳神経外科学1教室HPより)

6月に川崎医科大学脳神経外科の主任教授菱川朋人先生と同附属病院患者診療支援センターの小野由起様がお見えになりました。

【臨床と研究のバランス】

菱川先生は4月に岡山大学脳神経外科から着任されたばかりです。難病のもやもや病では第一人者です。脳卒中については脳の内側

【脳卒中医療の連携】

と外側から「二刀流」で対応されます。その研究から治療精度が高まることが期待されます。医師は脳神経外科・脳卒中科・リハビリテーション科

と外側から「二刀流」で対応されます。その研究から治療精度が高まることが期待されます。

ームです。毎朝、入院された脳卒中患者さんの合同検討会が開かれ最適な治療方針が決まります。一人でも多くの患者さんの社会復帰を目指すためです。

そのカンファレンスに当院も毎週1回ですが参加しリハビリ対応についてフィードバックするよう努力しています。菱川先生これからもよろしくお願いします。

川崎医大脳神経外科の新教授、菱川先生方来訪

ますます充実する岡山の脳卒中急性期医療

コープリハビリテーション病院 院長 鍛本真一郎

小さな達成感を積み上げトイレ自立回復

リハビリ新人発表報告



新人発表をしている筆者

言や笑顔が増え、トイレ自立に至りました。

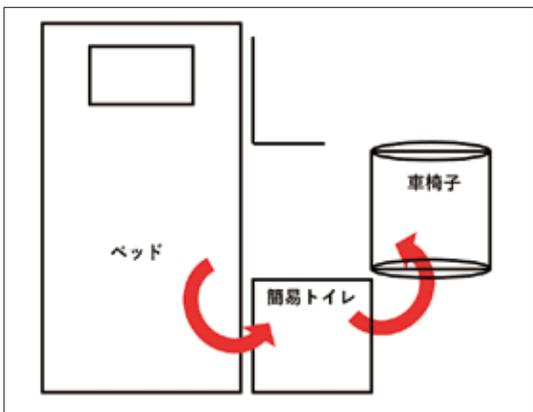
個人に合った動作の難易度調整で段階的に達成感を保つたことが生活能力向上に必要とわかりました。また、その後は、本人の強い希望であった「歩きたい」という思いも叶えることができました。

この症例から、回復期リハビリテーションにおける在宅支援の難しさとやりがいを感じることで、医師や先輩方にご指導をいただきました。お世話になった方々に深くお礼申し上げます。(コープリハビリテーション病院 理学療法士 仁科有紀子)

大腿骨転子部骨折受傷後、立ち上がり困難であった症例について報告しました。自力で立ち上がれないため、トイレに行くことに消極的でした。はじめは一般的なリハビリを始めていたが、なかなか出来ずご本人の気持ちも落ち込んでしまっていました。

そこで、ご本人が1人でできる事を増やすため、移乗やトイレ動作の難易度を下げる工夫を行いました。また、一人で出来る事が増えるたび看護師さん達に褒めてもらい本人のやる気は高まりました。

その結果、前向きな発



例えばベッド平行移動に難易度を下げ、1人でできる回数増加で達成感を途切れさせません。

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。

